

会計学原理 II

科目ナンバリング ACC-104
選択 2単位

徳山 英邦

1. 授業の概要(ねらい)

会計学原理では、会計の目的、財務諸表(会計データ)の見方と会計システムを学修します。講義方法は、当日の学修テーマを概説し、演習問題で具体的課題箇所を実感してもらった上で、再度その学修意義を解説する手順で行います。会計の土台は複式簿記です。会計学原理 I と同様に、簿記の理解に根差した理解のために、適宜、簿記の記帳実践と関連づいた授業になります。

2. 授業の到達目標

財務諸表の理解を深めることを目標とします。主に、(1)財務諸表(貸借対照表、損益計算書)の必要性和特徴、(2)財務諸表の構成要素の理解、(3)財務諸表の相互関連と計算原理の把握、(4)制度的基盤(基準や法規)を把握することを目標とします。

3. 成績評価の方法および基準

授業中に行う小テストや課題の提出状況・受講姿勢(35%)と定期試験の成績(65%)を目安に総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

新田忠誓、他著 『会計学・簿記入門』(第16版) 白桃書房

参考文献

近田典行、他著 『基本から学ぶ会計学』 中央経済社

5. 準備学修の内容

授業中に配布するプリントを自分で解き、各回の学修事項をイメージ化し、作図化してください。初めて出会った専門用語の定義を書いてみてください。また、教科書と関連づけて反復して理解するように努めてください。会計学の習得には、自ら実践的に学ぶことが必要です。

6. その他履修上の注意事項

計算機、3色ペン、各回に配布済みのプリントを毎回持参して下さい。理解度確認を目的とした小テスト(約30分)を1、2回程度実施します。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス(授業の進め方、成績評価、履修上の留意点)、会計学原理 I の復習
- 【第2回】 会計学原理 I の要点(投資、消費及び浪費、出資、融資及び収益獲得活動、ストックとフロー)
- 【第3回】 商品売買の会計処理①—仕入高、売上原価の計算:売上高と対応費用(費用収益対応の原則)
- 【第4回】 商品売買の会計処理②—たな卸資産の期末評価:資産と費用の関係
- 【第5回】 取得原価主義と発生主義会計(実現主義、発生主義、費用収益対応の原則、費用配分の原則)
- 【第6回】 制度的基盤①(株式会社、資本の委託者と受託者、財務諸表の作成者と利用者:ステークホルダー)
- 【第7回】 損益計算書の表示様式と構成(勘定式、報告式、費用収益対応の原則、費用配分の原則)
- 【第8回】 貸借対照表の表示様式と構成(勘定式、報告式、流動性配列法、流動・固定の分類規準)
- 【第9回】 財務諸表分析①:損益計算書の要点把握と分析(収益性分析)
- 【第10回】 財務諸表分析②:貸借対照表の要点把握と分析(安全性分析)
- 【第11回】 財務諸表分析③:損益計算書と貸借対照表の2つを用いる分析(総合的収益性分析)
- 【第12回】 財務諸表分析④:損益分岐点分析、管理会計と財務会計の役割
- 【第13回】 会計公準と基本財務諸表4種類の全体像、そして会計監査の役割
- 【第14回】 制度的基盤②(店と奥の分離、所有と経営の分離、株主有限責任制)
- 【第15回】 学修内容の要約(発生主義会計、会計主体論)